



小学校低学年の読書感想文の課題図書に「おこだでませんように」(くすのきしげのり作)という本があります。家でも学校でもいつも怒られてばかりいる主人公の「ぼく」が、どうしたら怒られないのだろう、どうしたらほめられるだろう、という思いを七夕の短冊に込めて「おこだでませんように」と習いたての平仮名で書くというお話です。この本についての一、二年生の感想文をいくつか読む機会がありました。感想文からは、主人公の「ぼく」と自分を重ね合わせて「ぼく」に共感すると同時に、親から愛されたいという子どもの思いが伝わってきました。それと同時に、つい、「早くしなさい」「そんなことでは、ダメでしょう」と子どもに言ってしまうっているなあ、と反省させられました。もちろんきちゃんと叱ることは大事ですが、それだけでは子どもは健やかに育たないでしょう。「大丈夫だよ、よくできたね」という励ましの言葉が必要です。

では、なぜ親は子どもをガミガミと怒ってしまうのか、どのように子どもに對したらいのかについて、山崎房一著『ほめて上手に育てる法』お母さんのガミガミが子どもをダメにする』から紹介します。

山崎氏は、「子どもへのガミガミは、親が自分自身に對して持っている不満が我が子に向けられたもの」なので、まず親が「自分自身を好きになること、自分の長所も短所もひっくり返る、これで良しと思い切って百点満点をつける」ことが大事と説いています。その上に立つて「他人の立場を思いやり、公平で常識豊かな大人の心を第二のハートとしてうまく運用する」つまり「親の役割を演じる」と、子どもに對してもガミガミと欠点を指摘するのではなく、子どもを認めてうまくアドバイスをしていくことができるということです。また、次のようにも説いています。「許すこと、そうすれば、子どもは白紙の状態にもどり、自分に備わっている向上心に沿って、もう一度やり直しができる」叱られると、安心感を喪失して新しい知識を上手に吸収する能力を低下させてしまう「注意するときは、子どもの人格に触れず、低い声で分かるように優しく言うこと」

そうは言っても、忙しい日々の中で、つい子どもに對してもイライラと怒りたくなることが多いと思います。そんな時には、一呼吸置いて、対応したいと思います。

伝言板

富士・東部保健福祉事務所(富士・東部保健所)

飲料水の水质検査を廃止します

特定不妊治療費助成

県が行っている飲料水水质検査については、3月末をもって終了します。4月以降は次の検査機関をご利用ください。

(社)山梨県食品衛生協会

☎ 0555(24)2036

(株)メイキョー

☎ 055(228)2858

(株)山梨県環境科学検査センター

☎ 055(278)1600

(株)環境計量センター山梨検査所

☎ 055(284)8131

問合先

衛生課 ☎ 0555(24)9033



県では特定不妊治療(体外受精及び顕微授精)を行った夫婦に對して費用の助成を行っています。

今年度は国の経済対策により1回あたりの助成限度額が10万円から15万円に拡充されています。

※来年度以降の助成額は未定です。

対象者

○夫婦のどちらかが山梨県に住所を有している

○法律上の婚姻をしており、特定不妊治療以外では妊娠の見込みが極めて少ないと医師に診断された夫婦
○夫婦の所得合計額が730万円未満
対象となる治療

県が指定した医療機関において受けた体外受精または顕微授精

助成額

治療1回あたり15万円を限度に年度2回まで

対象期間

平成21年度内に治療が終了し、平成22年3月末までに申請したものに限り。

問合先 健康支援課

☎ 0555(24)9034